広報わたり

平成23年　4月18日号

東北地方太平洋沖地震臨時号（1）　発行人　亘理町災害対策本部　亘理町字下小路７番地４

お断わり
広報わたりでは、今回の震災を「東日本大震災」と表記します。今後の発行は不定期となります。亘理・逢隈・吉田西部地区、吉田東部の一部地域は行政区長を通して各家庭へお届けします。避難所、主なスーパー・コンビニ等でも配布します。

被害甚大 死者240人超

写真　阿武隈川河口から鳥の海湾を臨む（左上がわたり温泉鳥の海）

東日本大震災は、一瞬にして町民の生活、産業、雇用、そして多くの尊い命を奪い去りました。

三月十一日午後二時四十六分、マグニチュード九・〇、震度六強の地震が発生し、宮城県沿岸に大津波警報が発令されました。亘理町では沿岸部に避難指示を出し、防災無線と広報車で避難を呼びかけましたが、誘導にあたった消防団員を含む大勢の方々が犠牲となりました。

荒浜は、五丁目や築港周辺が跡形もなく破壊され、海岸から少し離れた場所でも家の形はあるものの、高さ二メートル以上の水流が住宅地を襲い、がれきや車、漁船などが折り重なっている状況です。

また、吉田浜も壊滅状態で、防潮林がなぎ倒され、東北一を誇るいちご団地も姿を消してしまいました。

津波による浸水は、蔵、高屋、柴町、新丁など常磐自動車道の西側一帯に広がり、農地の七割が塩害の被害を受けています。塩害は深刻で米や野菜など数年は栽培が難しいということです。

ライフライン復旧の見通し立たない

地震によって、電気・水道・電話がストップし、災害時の拠点である役場庁舎も大きな被害を受けたため、ホームページやメールでの情報提供ができず、町民のみなさんにご迷惑をおかけしました。

水道は、被災地での復旧作業が行われていますが、各家庭の給湯器などが津波で流された影響で、通水しても各家庭から水が吹き出す状態となっており、一軒一軒止水栓を止めている状況です。しかし、がれきが堆積しており、思うように作業が進んでいないのが現状で、復旧には時間を要する見込みです。

また電気についても、がれき撤去が進まなければ工事ができない状況であることから、復旧の見通しが立っていないということです。

気象庁によると、今後も余震へ警戒するよう呼びかけており、仮に強い地震が起きた場合、復旧地域でも断水や停電の可能性があります。

そのため、風呂に水を張るなど、当分の間地震に備えておきましょう。

津波で根こそぎ流出した荒浜五丁目、築港周辺（写真上）、吉田浜周辺の住宅（写真左）

亘理大橋周辺

吉田浜地区

破壊された堤防（荒浜）

長瀞小学校

亘理町臨時災害ラジオ FMあおぞら 放送中

３月24日から臨時災害ラジオを放送しています。これは、町民ボランティアの協力で災害時の情報を町民の皆様へお届けするものです。

周波数　FM７９．２MHz（震災のないくにへ）
放送内容　災害対策本部からの情報、防災無線の放送内容、緊急時の放送、生活情報、復興を支援するための情報など
放送時間　午前８時から午後７時まで
２時間ごと（８時・10時・12時・・・）に放送
情報をお寄せください。
ＦＭあおぞら直通電話　☎0223－32－2293まで

ほっとメール便
亘理町メール配信サービス

防災安全情報メール
ansin-watari@wbi.jp

東日本大震災に関連する情報や防災無線の放送内容を配信

亘理町の被害状況
（４月14日現在）

死　　者	248人
行方不明者	38人
被災家屋	約3,000戸
避難所数	５箇所
避難所人数	
３月13日	6,155人
４月14日	1,508人

「亘理町の「再生」を宣言

亘理町長　齋藤邦男

夢と希望を持って　力を合わせ復興めざす

三月十一日、午後二時四十六分、三陸沖を震源とする巨大地震、東日本大震災が発生しました。この地震で大津波が襲来し、荒浜地区と吉田東部地区に甚大な被害をもたらし、多くの町民の方々の貴重な生命財産を一瞬にして奪い去りました。

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

町では、復興に向け全力を尽くしておりますが、想像をはるかに超える被害に思うように進めないのが実情です。しかし、自衛隊や消防など全国からの救援を受け、捜索活動を行っているとともに、国や県と連携しながら被災を受けた皆様の支援のための準備を着々と進めております

被災された方々が一日も早く被災前の生活に戻れるよう、町民の皆様や各種団体の意向を十分に配慮し、新たな視点も加えながら、亘理町の「再生」を目指してまいります

今こそ町民が力を合わせ、夢と希望を持って生きていかなければなりません。町民一人ひとりができる範囲で、ぜひ復興にご協力くださいますよう、お願いします。

現在の方針

○行方不明者の捜索と並行して、がれきの撤去を行い、ライフラインの復旧を目指します。
○堤防の修復など、最優先すべき整備を国県と連携して行います。
○亘理町緊急生活支援金や生活再建支援法に基づく支援金の支給を急いで実施します。
○仮設住宅の割り当てが四〇二戸（四月十五日現在）となっています。引き続き建設、入居が早まるよう要望していきます。

がれき撤去始まる

十八日から順次

がれきの撤去作業が四月十八日から始まりました。被災されたみなさんには、事前に旗による意思表示をお願いしていますが、最終的な意思表示を二～三カ月以内でお願いします。

がれきの撤去は、旗を目印に、荒浜・吉田の八ブロックから範囲を広げていくことにしていますが、どの地域がいつ撤去されるかは、今後の作業状況により異なるため、家屋の撤去などの判断に迷っている方は、まず**「黄色」**の旗を立て、最終的に家屋を解体したいときは、**「赤色」**の旗に付け替えてください。

なお、車については撤去してほしくない場合のみ**「緑色」**の旗を立てるか、見えやすいところに表示してください。車の仮置場は亘理駅東側の公共ゾーンで、仮置きした車両の一覧はホームページに公開しています。

撤去作業が開始されるブロックの目安

(1)　荒浜地区
①亘理町荒浜字御狩屋周辺（荒浜保育所周辺）
②亘理町荒浜字水神・隈潟周辺（荒浜小学校周辺）
③亘理町字西木倉周辺（當行寺周辺）
(2)　吉田地区
①亘理町吉田字小橋・大橋周辺（長徳寺周辺）
②亘理町吉田字南原周辺（長瀞小学校周辺）
③亘理町吉田字板橋周辺（浜吉田郵便局周辺）
④亘理町吉田字大谷地周辺（ＪＲ浜吉田駅の西側）
⑤亘理町吉田字流周辺（ＪＲ浜吉田駅の東側）

町民のみなさん　力を貸してください

町民のみなさんには、避難所の炊き出しなどご協力をいただきありがとうございます。

被災地では、家屋内に溜まった泥や砂、がれきの除去など、みなさんの協力を必要としています。

毎日県内外のボランティアがこうした活動をしています。みなさんのご協力をお待ちしています。

ボランティアセンター
☎0８0(4076)1906
☎090(6853)1097

被災したみなさん、遠慮しないでご連絡ください。

つかの間の笑顔

東京の美容師が支援活動

避難所生活が一ヵ月を過ぎました。集団生活のなかで、互いに気を使いながらも、「命があることに感謝しなければ」と七十代の女性は語ります。震災で多くの人が犠牲になり、思い出のたくさん詰まった家も、生計を立ててきた畑も、船も失い、希望を見出せないのが現実です。

こうした悩みを抱えた人たちに、少しでも喜んでもらいたいと四月五日、亘理高校体育館の避難所に美容師たち十人がヘアカットのボランティアに訪れました。東京表参道で有名人が数多く通うアルティファータという美容室のメンバーで、いわゆるカリスマ美容師たちです。

「髪形はどうしますか？」美容師たちが髪に触れると、不思議に笑顔がこぼれます。高校生の鈴木ゆいさん（長瀞浜）は「明日学校なので、東京の人にカットしてもらったことを自慢します」と、とても喜んでいました。

アルティファータの村山武さんは「髪を切って喜んでもらうことが美容師の原点です。要望がある限り毎週来ます」と話していました。

この日は百人以上の人が髪を切ってもらい、美容師とのコミュニケーションで気分をリフレッシュしていました。

震災から1か月

復興へ船出

漁船回収始まる

荒浜で漁船や釣船の引き揚げ作業が始まりました。大型クレーン三台で少しずつ、これ以上壊れないよう慎重に船体を持ち上げていきます。

震災のあった日は、休漁期間であったため、ほとんどの船が岸壁に接岸されており、八十四隻のうち八十二隻が津波で流され、民家に突っ込むなど、見るも無残な姿になってしまいました。また、漁協の施設もすべて全壊、精力的に亘理の漁業を盛り上げてきた組合員やその家族も犠牲になるなど、絶望感に包まれていました。

しかし、宮城県漁協亘理支所菊地伸悦運営委員長は、「自分たちでできることはやる。準備が整えばすぐに魚を獲りに行きたい」と国や県に対し漁港内のがれき撤去を強く訴えています。漁業者の中には、廃業する意思を固めた人もおり、早く再開のめどをつけ希望を持ってもらいたいと、全壊した漁協事務所の隣に仮事務所を設けて、漁協職員が一丸となって陣頭指揮を執っています。

四月十四日、角田にあるサケのふ化場から七十万尾の稚魚が阿武隈川に放流されました。今日放流した稚魚は、四年後母なる川に戻って来ます。荒浜の活気ある漁業が一日も早く再生できるよう、みんなで応援していきましょう。